

キャンパスに学生たちの姿、徐々に —— 東京農大 ウィズ コロナ ——



3密を避けて着席し授業を聴く学生たち



コロナ禍を受け全面閉鎖していたキャンパスに、徐々に学生の姿が戻ってきている。「感染対策徹底」と「スムーズな入退構」を並存させる工夫を施し、新しい生活様式下での質の高い学びの場の実現を目指している。



①



学部ごとのネクストラップ

新型コロナウイルス感染症対策の一環で、学生に配布するためのネクストラップが作成された。大学のロゴ入りで、

学生にネクストラップ配付

新型コロナウイルス感染症対策の一環で、学生に配布するためのネクストラップが作成された。大学のロゴ入りで、学部ごとに異なる色を採用している。東京農大では現在、感染者が発生した場合にいち早く濃厚接触者を特定するため、キャンパス入構時と、退構時には学生証による入構確認を行っている①写真②。その学生証を常時携帯しやすいようにと、ネクストラップが学生全員に用意された。ネクストラップの色は学部のイメージカラーで作られ、何学部の学生かが一目で分かる、関係者以外立ち入り禁止となっているのに一役買うことになる。



②

新型コロナウイルス感染症による国からの緊急事態宣言を受け、東京農大でも4月10日からキャンパスを全面閉鎖とした。授業はもちろん部活動も活動休止となり、授業は全てオンラインへ移行することになった。早期収束を期待するも状況は変わらず、前学期期間中は世田谷・厚木・北海道オホーツクの3キャンパスに学生が戻ることはなかった。

9月、後学期の授業開始に合わせて大学の入構規制が緩和し、一部で対面授業が再開した。キャンパスが以前同様に、座席の管理も徹底し、学内への入構者数の制限とともに、感染防止策を徹底した上で、実習・実習・演習科目と二部講義科目で対面授業が再開した。1号館の教室入り口には、消毒液などが設置され、入室する際には手指の消毒をする①写真②。また、使用する机と椅子に対してもアルコール消毒を行う。教室は大教室を使用し、座席の管理も徹底。

感染防止徹底しての対面授業

学内への入構者数の制限とともに、感染防止策を徹底した上で、実習・実習・演習科目と二部講義科目で対面授業が再開した。1号館の教室入り口には、消毒液などが設置され、入室する際には手指の消毒をする①写真②。また、使用する机と椅子に対してもアルコール消毒を行う。教室は大教室を使用し、座席の管理も徹底。

令和2年度第2回オンラインによる第2回教育懇談会が11月28日に開催された。全体会では、後学期授業と大学活動の状況報告がされ、1400人以上がライブ配信を視聴した。全体会終了後は、学部学科ごとのオンライン懇談会となり、学科教員との個別・集団ミーティングが行われた。後学期から一部対面授業が再開したこともあり、前回以上に保護者から高い関心が寄せられた今回の教育懇談会。冒頭に挨拶をした高野学長からは、再開した実習実習についてのことなど、学生の命を第一にしっかりと学びの機会を維持している現在の状況が語られた②写真。



TheNEWS
東京農大
「生きる」を支える
TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE 1891

東京農業大学
世田谷キャンパス 大学本部
大学院・応用生物科学部
生命科学部・地域環境科学部
国際食料情報学部
厚木キャンパス
大学院・農学部
北海道オホーツクキャンパス
大学院・生物産業学部

4月・7月・12月 発行

編集 東京農業大学学長室

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1

<http://www.nodai.ac.jp>

- ② 「研究室から」人のつながりに感謝し「食」を学ぶ……
- ② 森田茂紀教授 日本農学賞受賞……
- ③ 「総研ニュース」アザラシは漁業者にとって「害獣」？……
- ③ 東京農大教育後援会 富士農場にテント寄贈……
- ③ 表参道サテライトキャンパス……
- ④ プロ野球ドラフトでオホーツク2選手指名……

**SNSでも
情報発信!**

東京農大はソーシャルネットワークを通じて大学の情報をお届けしています

Twitter



@nodaipr

Instagram



tokyonodaipr

研究室から

東京農業大学大学院
食料環境経済学科

修士前期課程1年

フードシステム研究室

新堀 洋紀さん

「食」の地域ブランドについて深く学びたいと大学院に進学した新堀さん。「いつかは教師に」という思いも胸に秘め、コロナ禍にめげず研究活動を続けている。その前向きな視線の先に何を見ているのか話を聞いた。

十年後の未来にも決して無くていきました。そしてそれは、キャリアの選択対象でもありません。だ、と新堀さんは考える。東京農大に入学した理由の一つだ。『食』という分野の中でも特に商品開発について興味を持っていました。東京農大に入学し、学部時代には商品開発・企画にも携わることができ、大学で学んだ経済学を仲間と共に実際の活動へと昇華することができました。

もう一つの大きな理由、それは教員免許取得だ。「教育大学の附属小中学校に通っていたこともあり、教育への関心を抱いていました。東京農大に入学し、学部時代には商品開発・企画にも携わることができ、大学で学んだ経済学を仲間と共に実際の活動へと昇華することができました。卒業のテーマは「ゆず」に

「農産物輸入の増加の影響や労働力不足の問題といった様々な問題を踏まえて、日本の農家がどのように農産物の産地維持を図っているのかに着目しました。徳島県那賀町で生産されている『木頭ゆず』を事例として取り上げ、そのブランド化と知的財産保護に関する研究を行いました」

そして大学院へ。学部時代に学んだことを基盤に、商品開発・企画等の経験を通じた「食」の地域ブランドについてのより深い理解へと研究を進めていく。そこにコロナ禍がくる——フィールドワークをするのは社会の情勢上困難となり、大学院の授業も前期は主にリモートによる授業に。しかし、指導してくれる先生方とのア



『美学生』を重視し「木頭ゆず」生産現場を現地調査——徳島県那賀町で撮影

人のつながりに感謝し「食」の学び深め続ける

「自分自身の研究に関しても、特に私の指導教授である高柳長直先生が親身になって相談ののってくださりコロナ禍でも研究を進めることができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです」とはいえ、やはりつらいこともあった。大学図書館に気軽に立ち寄り、先生方や友人、先輩に大学で会えなかったのがこたえたという。「いま一人



暮らしているもので、人と直接に会うことができないのは、研究面だけではなく生活面全体にとってストレスでした。コロナ禍になって、人と会って話しをできることが当たり前ではなくなった生活を経験し、人とのつながりの大切さ、親友への感謝を改めて実感しました」

やがて登校が可能な状況になり、普通に大学に行き、普通に授業を受け、普通に研究活動でできるようになったときは本当にうれしかった、と新堀さん。

修士卒業後の目標の一つは、学術誌に投稿して掲載されるような論文を書くことだ。コロナ禍で進路に不透明さを感じつつも、焦らずに前を見据える。教師への思いがそこにはある。

「経験を生かし、生徒のキャリアデザインを少しでも手助けできるように教師に、いつかなれはとも思います。ただ、人生は何かあるかわからないので、まずは幸せな生活を送れるようにしたいです」

大学院は、学部で学んだことをより深めていき、その知識を自分の研究へと昇華できる場所だと、新堀さんは言う。「すでに就職している私の友人の中には、もっと勉強したかったと後悔している人もいます。研究に興味がある人はもちろん、学問への未練がちょっとでもある人にとって、大学院進学は一つの道なのかもしれません」

知識を自分の研究へ昇華

「企業などに就職する際、『この会社で何をしたいか』と問われるのは大学院でも同じです。何がし

たいか、何を研究して明らかにしていきたいか、が問われます。また、その答えは人によって異なるため、研究を進めていくなかで『目標を達成するために、今は何をしなければならぬか』と一人で考え込んでしまうこともあります。

だからこそ、大学院への進学を前にした時は、そこで何をしたいか、その軸をしっかり定める必要があると思います。大学院生活は長いようで短いとも感じるので、皆さんも後悔のない選択をとお伝えしたいです」

日本の
農学研究者
最高栄誉

森田茂紀教授

日本農学賞受賞

——東京農大14年ぶり快挙

日本農学賞を受賞した森田茂紀教授（農学部デザイン農学科）の受賞記念講演が10月28日、厚木キャンパスで開催された。日本農学賞の受賞は、日本の農学研究者にとって最高の栄誉であり、東京農大では14年ぶりの快挙となる。

森田教授は、東京大学で教育研究に従事した後、2014年に東京農大の教授として着任した。高校生の時から農学に興味があり、大学時代に恩師と出会ったことにより、根の研究に入り、第一人者となった。

学生時代から今まで変わらないこととして、現場主義を挙げる。時には、半日以上かけて一株のイネの根を掘り出し、またあるときはイネの葉先に出る水滴の量と根の活力の関係を調べるために、切り株ひとつひとつに綿を巻き付けて調査した。

海外の調査では、現地での状況や考え方を踏まえ、その地に導入できる適正技術を考えて。「研究が先

エリアンサスを伐採する森田教授



「他人のために汗をかき、下手法は計算はせずに現場へ飛び込めば、次につながっていく」と学生へメッセージを送った。

今も、進んで現場へ向かう。厚木キャンパスの正門近くに育つ巨大なエリアンサス（エネルギー作物）は、森田教授が東京農大に着任して厚木キャンパスの教職員・学生の協力を得て植えたもので、今では4、5層ほどに生長した。このエリアンサスを東日本大震災で大きく被害を受けた農地や全国に広がる耕作放棄地で育て、エネルギーの地産地消を通じた地球温暖化対策や地域振興策を目指している。

佐々木卓治先生

文化功労者顕彰記念 オンライン講演会開催

東京農業大学農生命科学研究所 参与 佐々木卓治先生が令和元年度の文化功労者として顕彰されたことを記念し、10月29日世田谷キャンパスで講演会が開催された。講演会はオンラインで配信され、約300名の方が参加した。

まず始めに大澤理事長と高野学長から祝辞が送られ、次に海外の研究者から届いたお祝いメッセージの視聴、その後、佐々木先生と関係が深い小林和人教授（福島県立医科大学）、新美輝幸教授（自然科学機構／総合研究大学院大学）、芦刈基行教授（名古屋大学）3人の先生方による講演が行われた。さまざまな分野に精通し、各国の研究者に親しまれる佐々木先生のさらなる活躍が期待される。



花束を手に笑顔の佐々木先生

アザラシは漁業者にとって

本当に「害獣」か？

プラス面を実証できれば地域活性化が可能



生物産業学部海洋水産学科 教授 小林 万里

北海道の基盤産業は漁業である。しかし、漁業資源の衰退により、かつては遠洋漁業が主流だったが、近年は沿岸における待受け漁業に変遷してきた。それにより、アザラシの生息場所と漁場がオーバーラップするようになった。さらに、人間によるアザラシ利用が激減したため、その生息個体数は増加傾向にあり、北海道におけるアザラシによる漁業被害が年々、深刻化している。

アザラシは、捕食可能な魚を何でも捕食する広食性(ジェネラリスト)だ。待受けの漁網のような集魚性が高い場所は、容易に採餌



プロジェクトの概要

「害獣」なのだろうか？ 学部長主導型研究プロジェクト「地域主体のアザラシの循環型順応的管理システムの構築を目指して」アザラシの生態系サービスと有効利用の可能性を探る。これは、それを明らかにすることを目的としている。このプロジェクトの特徴は、アザラシのプラス面を追求するところにある。アザラシによる生態系サービス、つまり生態系



えりも地域でのコンブ採取・採水調査(左から二人目の後ろ姿が小林教授)

表参道サテライトキャンパス

東京農大・北海道文教大・札幌大



— 10月31日～11月15日にわたり開催

東京農大、北海道文教大学、札幌大学の3大学による共同イベントとして、表参道ヒルズ西館で「表参道サテライトキャンパス」



が10月31日～11月15日の期間限定でオープンした。写真。東京農大は北海道文教大学と包括連携協定を締結しており、今回は北海道文教大学主導のもと実現した。

このイベントで東京農大はOB・OGによって作られている日本酒や味噌、蜂蜜やジャムなどの商品や、農大生が作っている昆虫

食、紙ストロー、セミドライりんごなどを展示販売(一部)し、大学のPRを行った。江東区から表参道へ買い物に来たという女性は、表参道ヒルズに何ができたのかと不思議に思い入店。展示されていた昆虫食を見て「子供のときに食べていたイナゴの佃煮を思い出す。虫を日常的に食べる時代が来るかもしれない」と昆虫食に興味を示していた。

東京農大OBの酒造会社より

酒蔵作の消毒用アルコール寄付

大学に設置されている消毒用アルコールスプレー。これらはほぼ全てが東京農大出身の酒造会社から提供されたもので賄われている。

これまでに5社、合計1400本以上の消毒用アルコールが寄付された。これは東京農大だけでなく、稲花小学校や附属中学・高校、東京情報大学の消毒用アルコールとしても配布さ

発しました。学生の皆さんが安心して学習できる環境を整えるために活用してほしい」と話す。

酒造会社が作る消毒用アルコールは、それぞれ特徴があり、ほのかにお酒の香りが残るものもある。キャンパスで手指の消毒をする際は、殺菌効果とともに香りも注目される。

提供企業5社は以下の通り(順不同)。
株式会社南部美人▽株式会社高橋庄酒造店▽有限会社八重酒造▽朝日酒造株式会社▽天寿酒造株式会社

東京農大教育後援会

富士農場にテント寄贈



数野後援会長(右)から目録を受け取った高野学長。寄贈された屋外大型テント

富士の絶景を望める総面積33畧の富士農場で11月13日、東京農大教育後援会から屋外大型テントが寄贈された。

東京農大の持つ農場の一つである富士農場は、静岡県富士宮市朝霧高原に位置し、それぞれ牛部

門、養豚部門、家禽部門の施設があり、日ごろから学生の実習の他、小中高生や国際協力機構(JICA)の研修、青年海外協力隊の派遣前研修、本学教育後援会などの農場見学や実習を受け入れている。今回の寄贈は、これまで利用してきたテントの老朽化に伴い、新たな大型テントが贈られたもの。

数野通夫教育後援会長から寄贈を受けた高野学長は、「雨天の多い朝霧高原に位置する富士農場に、屋外テントは必要不可欠なものです。学生や大学関係者並びに保護者の方々に活用していただく上で、富士農場の利用がより円滑化するでしょう」と御礼の言葉を述べた。

ブランドン選手（右）と中村選手、ガッツポーズのツーショット！記者会見で



桃み続ける
農大生



オホーツクキャンパス 農友会 硬式野球部

2選手を指名

プロ野球の新人選手選択（ドラフト）会議が10月26日、東京都内のホテルであり、東京農大北海道オホーツクキャンパスの農友会硬式野球部2選手が指名された。埼玉西武ライオンズ6位のタイシンガーブランドン大河選手（地域産業経営学科4年）、福岡ソフトバンクホークス育成8位の中村亮太投手（地域産業経営学科4年）だ。今回の指名を受けた感想、今後の抱負などを2人に聞いた。

埼玉西武ライオンズ 6位

タイシンガー
ブランドン大河（内野手）

生物産業学部 地域産業経営学科4年
（現自然資源経営学科）
179センチ・84キロ／右投げ右打ち
沖縄県立石川高校出身



勝負強い選手になる

タイシンガーブランドン、チームメイトや周りの大河選手は、ずば抜けた身体能力と強さを持つ、パンチ力ある打撃と強肩を活かした守備、足も速く3拍子揃ったマルチプレーヤー。北海道6大学野球リーグ戦において優秀選手賞1回、首位打者3回、ベストナイン5回を受賞している。

今回の指名を受けた直後は「頭が真っ白」だったというブランドン選手。「両親からは『よかったね。ここからだね』と声をかけてもらった。チームメイトも喜んでくれた。特に同郷（沖縄出身のチームメイト）は自分のことのように泣いて喜んでくれた。自分だけの力で指名されたのではな

らなように、意識が変わっていった。自分でも自分の変化を感じるし、周りからの評価も同じだと思う」三垣勝巳監督は「キャプテンになって明らかに変わった。自己表現が苦手だったが、今はうまくチームをまとめ引張っている。真面目な性格もあるし、とても言葉を選んでくれる。後輩たちからの信頼も厚い」と語る。

自負するのが「勝負強さ」だ。「ここ一番のチャンスは『絶対打つ』という強い気持ちでバットボックスに立っている。ブランドンなら打ってくれる、と安心して見てももらえるような選手になるので、応援よろしくお願いします」最後に、後輩たち、そして農大同窓となる皆さんへメッセージを語った。

左から大澤理事長、正代関、高野学長



時津風部屋の新代関士として、ともに初となる優勝を成し遂げた正代関。時津風部屋で行われた昇進式では、「至誠一貫の精神で相撲道に邁進してまいります」と口上を述べた。



新大関 正代直也

至誠一貫の精神で邁進
農大生へ「大学時代は貴重な時間」

プロフィール
正代直也
熊本県宇土市生まれ28歳。小学1年から相撲を始め、熊本農業高校3年時に国体優勝。東京農大2年時に学生横綱。2014年時津風部屋入門。同年春場所前に前相撲で初土俵。序ノ口、幕下、十両で優勝し2016年初場所新入幕。184センチ、170キロ。得意は右四つ、寄り。

11月場所は負傷のため、負け越してしまっただけで、1月の初場所に期待したい。

どんな打者も

ストレートで三振を

福岡ソフトバンクホークス 育成8位

中村亮太（投手）

生物産業学部 地域産業経営学科4年
（現自然資源経営学科）
183センチ・76キロ／右投げ右打ち
千葉経済大学附属高校出身



中村亮太投手の持ち味は、しなやかなフォームからの最速151キロのストレートとキレのある変い。三垣監督は「中村は肩甲骨がとてもしっかりしている。柔軟な肩があるから150キロ超えの球が投げられるのだ」と評する。柔軟な肩があるから150キロ超えの球が投げられるのだという。中村投手のなかに、かつて監督に言われた「大人にならなさい」という言葉がいまも響いている。「入部当時によく言われていた。そのときはどういふことがわかっていなかったが、ずっと心

に残っている。自分なりに解釈して、言われたことをやるのではなく、自分で考えて行動するようにしている」1年生のときと比べると、いまや練習の取り組み方や姿勢がまるで違う。三垣監督。中村は、チームメイトのブランドン選手とともに1年生のときからレギュラーを張ってきた。先輩が多数進学していたから心強いと感じたこともあり、農大に入学した。全国に行ける可能性がある。自分も投げたいと思った」と振り返る。

サインは決まっている。と最後に投げかけてみた。「子供のときからプロ野球選手になったときのことを考えて練習していたので、それを使うように思っています」と目を輝かせた。

力投球することで、全てが自分の力になってきたと思う。投手としてストレートには自信がある。「どんな打者を相手にしてもストレートで三振をとれる選手になりたい」と目標を持っている。尊敬するプロ野球選手は、福岡ソフトバンクホークス・周東佑京選手。農大の先輩（地域産業経営学科2018年度卒）でもあり、いまや盗塁において日本球界きってのスピードスターだ（10月に連続試合盗塁のプロ野球新記録を達成）。「憧れの先輩。同じ育成として入団し、いま大活躍している。自分もまずは一軍へ行けるように頑張りたい」